日本語の文法　　山部和喜

授業概要

この科目は、本学のカリキュラムの中では人間文化学科の学科専門科目と位置づけられている。つまり、直接的にはたとえば日本文学講読（古典）やあるいは日本文学講読（近現代）等を学ぶ際に、間接的にはたとえば英語圏文学概論等々を学ぶ際に、日本語の意味を文法から解釈するのに役立つような科目として考えるべきだろう。よって、想定される科目内で日本語の意味を理解する必要が生じた時に役立つような、いわば解釈に役立つ日本語の文法を学ぶ時間としたい。

授業計画

第１回	文法とは　文語文法・口語文法とは
第２回	言葉の単位とは、品詞とは
第３回	口語文法（１）動詞（１）
第４回	口語文法（２）動詞（２）
第５回	口語文法（３）形容詞、形容動詞
第６回	口語文法（４）助動詞（１）
第７回	口語文法（５）助動詞（２）
第８回	口語文法（６）助詞、敬語法
第９回	文語文法（１）文語とは、歴史的仮名遣い
第10回	文語文法（２）動詞（１）
第11回	文語文法（３）動詞（２）、
第12回	文語文法（４）形容詞、形容動詞
第13回	文語文法（５）助動詞（１）
第14回	文語文法（６）助動詞（２）
第15回	文語文法（７）助動詞（２）、助詞
第16回	総まとめ（試験）

到達目標

通常の日本語の理解を深めるために、日本語である口語文法についての概略的な理解を目指したい。その上で、古典文学の文語文法についてもごく大まかな理解を目指すこととする。

履修上の注意

ほぼ毎時、前時間の復習テストなども実施する予定である。前半のまとめ、易しい内容から始めて少し難解な内容まで踏み込むつもりなので、積極的な取り組みを期待したい。

予習復習

復習テストのための準備をすることによって、毎回の復習をしてもらいたい。

評価方法

ほぼ、定期試験および小テスト（80%）、受講態度（20%）の割合で、総合的に評価する。

テキスト

最初の授業で指示する。また必要に応じて資料を授業の中で配布する。